

平成31年度 自己評価表 (計画段階・実施段階)

福岡県立特別支援学校「福岡高等学園」 学校長



学校運営計画 (4月)				評価 (総合)					
④ 学校運営方針		職業的自立及び社会参加を実現する意志と実践力を有し、誇りと思いやりをもって他者と接する人間の育成をめざす。							
⑭昨年度の成果と課題		⑥年度重点目標	⑦具体的目標						
<p>成果：昨年度は、教育課程検討委員会におけるカリキュラムの内容整理、行事検討委員会での新たな就業体験の計画に基づく年間の行事計画の見直し、スクールカウンセラーなどの外部専門家活用の一層の充実など校内連携による組織的な取組の充実を図ることができた。</p> <p>学部や分掌においても、ホームページの活用や教育事務所への学校紹介配布により学校見学者が約1.5倍に増加した。また、いじめアンケートによる早期発見、早期対応やスクールカウンセラーの助言を生かした教職員間の共通理解の推進などを図ることができた。</p> <p>課題：学校ランドデザインに基づく学年と分掌計画の取組がPDCAサイクルで進捗するシステムを構築する。</p>	A 職業教育の充実	a 生徒の就労先とのマッチングを図るために、校内連携のもと実習の機会を確保する b 生徒の就労に関する意欲及び能力の向上のために『デュアルシステム型現場実習』の導入を検討する c カリキュラム・マネジメント推進委員会と分掌間の連携の充実を図り、教育課程の在り方を見直していく d 就業体験や職場実習等のアセスメントの充実を図るとともに評価表をフィードバックし、一人一人の実態に応じた職業教育を行う	B						
	B 生活教育の充実	a 卒業後を見据え、生活管理能力を定着させるために学校、寄宿舎、家庭及び関係機関が密に連携し、職業生活における必要なスキルの育成を図る b 自治会活動や余暇活動のさらなる充実を図るとともに、ルールの緩和等を検討し、生徒の自主性や自立心を育む c 指導記録簿や生活自立段階表等の活用をとおして、個や状況に応じた適切な指導・支援を行う d 生徒が安心して安全な環境で生活し学ぶことができるように、大規模改修工事等による生活空間や導線の変化に適切に対応する。							
	C 学年等経営の充実	a 学校行事や学年、学級活動等をとおして様々な経験を積ませることで、他者と協調し、自らの役割を責任もって果たそうとする態度を養う b ホームルーム活動や各教科の指導をとおして、他者を尊重する態度を育てる c 社会人としてのマナーを身に付け、集団の一員という自覚をもたせるために挨拶の徹底、決まりの遵守、整理整頓等の意識の向上を図る d 就業体験や職場実習等をとおして、一人一人の進路についてのニーズを把握し、自己の将来の職業生活及び社会生活についての意識を高める働き掛けを行う							
	D 学習指導の充実	a 生徒が学ぶことと自己の将来とのつながりを見とおせる学習指導、生徒のコミュニケーションの効力感を高める学習指導の充実のための研修を企画、実施する b ミッションや学校教育目標を踏まえた教育内容を整理するとともに年間指導計画を立案し、月ごと、学期ごとに振り返りを行い、指導の改善工夫を図る c 生徒の実態により適した教務内規を整理する d 学習指導に関して外部講師を招聘した職員研修を実施するとともに自立活動の充実を図る							
	E 心と体の学習指導の充実	a よりよい人間関係が築けるように校内連携の充実を図り、教育活動全体をとおして社会的スキルを身に付けさせる b 生徒の的確な実態把握を行い、授業や寄宿舎生活の中で賞賛する場面を多く作り、生徒の自尊感情を育む c 職業的に自立し、健やかな社会生活を営むために、健康・安全や食・性に関する教育を行う d 心の安定を図るために、家庭や関係機関と連携し、思いやりのある態度、協調・共同する態度を育てる							
	F 校内外の連携強化・充実	a 学校とPTAとの連携を強化するとともに保護者の様々な不安や将来の生活設計に対応するため、ニーズに応じた専門家を招聘し、研修会を実施する b 特別支援会議を定期的に行い、校内支援体制の充実を図る c 対外的なセンター的機能の充実を図るため、教育相談のシステムを整備し取組む d 学校見学やHPをとおして積極的な広報活動を行うとともに各教育事務所との連携強化を図り、小・中学校への情報発信を行っていく							
	G ミッションを踏まえた専門性と組織力の向上	a 学校評議員や外部専門家との連携強化を図り、チーム学校として専門性の向上及び組織力の強化を図る b スクラップアンドビルドによる行事の精選、教職員の業務改善等を行う c 組織の専門性の維持、向上のために文書保管・管理システムを整備する d OJTの充実を図る							
	評価項目	⑧具体的目標				⑨具体的方策	評価 (3月)		⑬次年度の主な課題
	教務部	カリキュラムマネジメントによる学習指導の充実を図る。(A-c)				ミッションや学校教育目標の実現に向けて、職業的自立に必要な教育内容を整理するとともに、教科等の年間指導計画を立案し、月ごと学期ごとに振り返るシステムを作り、指導の工夫改善を図る。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科等年間指導計画一覧表の具体的な活用について今後検討。</li> <li>進路指導部が新たに作成した実習評価表を基に、今後授業内容や方法の改善を図る。</li> <li>教務内規の継続した見直し。</li> <li>学校見学事後アンケートに基づく効果的な広報活動の在り方検討。</li> </ul>
		生徒の実態に応じた職業教育の充実を図る。(A-d)				就業体験や職場実習で受けた評価を授業にフィードバックして、生徒個々の実態に応じた職業教育を行うことができるよう、進路指導部と連携してアセスメントや振り返りの方法等について検討し、授業内容や方法の改善を図る。	C		
		教務内規の見直しを行う。(D-c)				生徒の実態により適した教務内規になるよう内容を整理する。	B		
		小・中学校や地域への積極的な情報発信を行う。(F-d)				学校見学やホームページをとおして積極的な広報活動を行うとともに、各教育事務所との連携強化を図り、学校だよりの配布を依頼する等して、小・中学校への情報発信を行う。	A		
	第1学年	生活管理能力を育成する。(B-a)				基本的な生活習慣を身につけるために家庭や寄宿舎と連携して個別の支援・指導を行う。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>混合クラスでの課題を引き継ぎ、対策を学校全体で考え、新クラス編成を検証する。</li> <li>今年度同様、基本的な生活習慣を身につけるために家庭や寄宿舎と連携した個別の支援・指導の継続。</li> <li>デュアル型就業体験を学校全体での活動とするための関係部署との協力と協働意識をもった職員の業務分担。</li> </ul>
対人関係力、規範意識を育成する。(C-a, b, c)		他者と協調し、自らの役割を責任もって果たそうとする態度を養うために学校行事や学年、学級活動等をとおして様々な経験を積ませる。社会人としてのマナーを身に付け、集団の一員という自覚をもたせるために挨拶・返事の指導を徹底する。	B						

	自尊感情を育む。(E-b)	自尊感情を育むために学級活動において賞賛する場面を増やす。	B			
	将来の職業生活について意識を高める。(C-d)	将来の職業生活の意識を高めるために生徒自身が卒業後の姿をイメージできるような就業体験を計画・実施する。	A			
第2学年	規範意識、対人関係力、自尊感情を育む。(C-a, b, c)	①正しい言葉遣い、挨拶およびマナー、決まりの遵守、清掃、準備や後片付け、職務遂行力等の定着を図るために、ホームルームや各教科の指導の充実を図る。 ②学級活動や学校行事、人権・道徳の指導等の取り組みを通して、他者と協調・協力し、役割を果たす経験を積ませる。思いやりのある言動について具体的に行動レベルの目標をもたせ、適時性をもって賞賛等を行う。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体指導と個別指導のバランス、生徒の発達段階、理解度、行動できているかの度合いに合わせた手立ての工夫について強化し、継続する。</li> <li>・様々な生徒の実態による、コミュニケーションの取り方、対人関係の築き方に系統的なアプローチを員の共通理解のもと検討する。</li> <li>・自分の考えの伝え方、相手の意見の汲み取り方など、見通しをもった積極的な行動につなげる、学ぶ場の設定。</li> <li>・就業体験における関係部署との協力と協働意識をもった職員の業務分担。</li> <li>・生徒の作業実態を把握するための方策の継続検討。</li> <li>・支援会議等に基づく支援内容の継続性、次につながるものの検証が必要。</li> </ul>
	生活管理能力を育成する。(B-a)	安心・安全な日常生活を営むために必要な生活管理スキルの育成を図り、自らの力でできているという自覚や自立心を育むために、家庭や寄宿舎と密に連携する。	B			
	積極的な行動を促す学習指導の充実を図る。(D-a)	生徒の学習特性・課題等の把握に努め、授業規律の確立と物理的・人的な環境づくりをすることにより生徒が見通しをもって、積極的に学習活動に取り組めるようにする。	A			
	職業教育の充実を図る。(A-d, C-d)	就業体験等の進路行事やホームルーム活動、各教科の指導を通して、進路についてのニーズを把握し将来の職業生活についての意識を高める働き掛けを行い、積極的な行動を引き出す。	B			
	業務内容の整理、管理、支援内容の検証をする。	業務内容の整理、管理、引継ぎを確実にを行うために、業務内容の意図を常に確認、共有する。他部掌と連携しながら、支援内容が次につながるものになっているか検証する。	C			
第3学年	規範意識を高めるために、職業教育を充実させる。(C-c)	職場に必要な挨拶の徹底、決まり・マナーの遵守、整理整頓などが実践できるよう、集団の一員の自覚の下に社会人として求められる態度の指導を徹底する。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○卒業後については、以下のことを検討及び実施する。</li> <li>・地域生活及び職場定着を図るために、寄宿舎及び家庭と連携した指導。</li> <li>・生徒の実態及びニーズの継続把握。</li> <li>・個別の移行支援計画を効果的に運用した関係機関等へのスムーズな支援移行、必要な情報の提示についての検討。</li> <li>・新組織になっても、関係職員に引き続き報告・連絡・相談を行う。必要であれば家庭連絡を行い、課題を共有し、タイムリーな支援体制の整備。</li> </ul>
	対人関係力を高め、心身の安定を図るために、心と体の教育を充実させる。(E-b)	就労を見据えて、遅刻や欠席を減らすために、心と体のバランスを保つことができるための指導を行う。また、よりよい人間関係が築けるように、相手を尊重する態度を養う。	A			
	生活管理能力を高めるために、生活教育を充実させる。(B-a)	職場定着を図るためには、規則正しく、安定した生活を送ることが必要不可欠であることから、寄宿舎や家庭と連携し生活に必要なスキルの育成を図り、実践できるようにする。	B			
	自尊感情や働く意欲・実践力を高めるために学年等経営を充実させる。(C-a)	ホームルームや授業などの場面で、様々な経験を積ませることで、責任をもって役割を果たす態度を養う。また、進路活動を通して生徒の実態及びニーズを把握し、卒業後の生活についての意識を高められる指導を行う。	A			
	教育活動全体において、組織的かつ効率よく運営を行う。(D-b)	事前準備を行い、早目に職員に情報提供する。また、全体でタイムリーな情報を共有できるように、報告・連絡・相談の徹底を図る。	B			
生徒指導部	挨拶の定着を図る。(E-c)	学校教育活動全体をとおして、挨拶の必要性やTPOに合わせた挨拶方法を伝える。	C	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校部外者や校外では挨拶ができない生徒もいる。進路指導部と連携しながら新たな取り組みが必要。</li> <li>・いじめアンケート直後に気になる生徒については個別の面談が徹底され、見逃されやすい事案も確認でき、いじめの未然防止などにつながった。</li> <li>・特別支援部や学年、管理職との連携が図られ、必要に応じて全職員に周知することができた。スクールカウンセラーのコンサルテーションも有効利用することができた。引き続き行っていく。</li> <li>・文化祭や体育祭の練習期間の縮減により生徒のストレス減につながった。</li> <li>・校内共有データを活用しながら生徒の様々な行動の共有を行い、校内で連携した指導を行うことができた。</li> <li>・生徒指導の細かな指導について指導記録簿等を利用するよう周知する。</li> <li>・行動モデルを生徒に示すことにより、同じ生徒が同じ事象で特別指導になることはなかった。来年度は特別指導を解除したときも全体に報告するなど全体で共通理解する方向で見直す。</li> </ul>
		生徒会の朝の挨拶運動をとおして挨拶の習慣を身につけさせる。	A			
		挨拶コンクールを実施する	A			
	いじめのない学校づくりを行う。(E-b)	生徒の日頃の行動を観察して状況把握に努め、必要な情報については全職員で情報を共有し生徒指導に活かす。また、学年や特別教育支援部と連携して、生徒の精神的状況や特性の理解に努める。	B	B		
		いじめアンケート終了後、気になる生徒と個別面談や「相談週間」を設定し、早期発見・早期対応を心掛け情報を共有し指導の充実を図る。	B			
		教育活動全体をとおして、生徒に成就感や達成感をもたせる。また、生徒を賞賛させる場面を多く作り、自己肯定感を育む。	C			
		学校行事等の練習期間を短くして、生徒がストレスにならないような環境設定を行う。	A			
	学年、寄宿舎及び保護者との連携の強化を図る。(E-b, d)	学年、寄宿舎の指導方針の共通認識・相互理解を深めるとともに、相互の環境で起こった問題行動を共有し、生徒指導にあたる。	B	B		
		学級担任・寄宿舎部屋担任との密な情報交換ができるように関係者・分掌に働きかけるとともに、内容に応じては、学年全体または全職員への情報の説明(提示)を行う。	B			
		気になる生徒の行動については、担任の連絡帳をとおして保護者に連絡をしてもらう。	D			
デジ連を使用しながら、情報共有をスピーディーに行う。		A				
問題行動を起こした生徒へ効果的な指導を行う。(E-a)	該当生徒の情報を学年職員で共有する。状況によっては、全職員で共有する。	A	B			
	該当生徒の学級担任・部屋担任との情報交換を密接に行い、生徒の状況確認に努める。また、それをもとに学年と協議を行い具体的な行動モデルを生徒に伝える。	B				
	生徒の指導後の状況等を把握して必要であれば、他分掌と連携をとりながら、組織的に指導を行う。	B				

進路指導部	生徒が自分の障がいについて考え、学校での学習や諸活動と自分の進路とのつながりについて理解できる活動を企画する。(A-d)	生徒の実態に応じた進路ホームルーム計画を立案、実施し、生徒の自己理解を促すとともに、ニーズ把握につなげる	A	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年進路担当で練り直した進路ホームルームの内容や、卒業生・事業所の方の話を聞く会等の行事、進路講話等の内容を振り返り、系統性や有効性などの向上を図る。</li> <li>保護者、生徒への情報提供の在り方をさらに追求する。</li> <li>つながりのできた企業との対応履歴を整理し、活用可能なものにする。</li> <li>就業体験（1、2年生）の形態を改めて見直し、教育課程内での位置づけ等、どのような形が望ましく、実現可能なかを検討する。（デュアルシステム等の諸施策導入を検討する際の前提条件を整理する）</li> <li>職場定着支援について、人員配置や学校が担う役割について検討。</li> </ul>
	生徒の実態、希望職種を踏まえた就業体験、職場実習の受け入れ先の確保に努める。(A-a)	1、2学年就業体験及び3学年職場実習を推進するとともに、各学年の実習のつながりの在り方について検討していく 進路渉外担当職員を中心に、保護者、職員等から職場開拓につながる情報収集を積極的に行い、適宜開拓することで学校の取り組みに賛同いただける企業を増やしていく	A	A		
	本校の現状（教育課程・生徒の実態等）と企業のニーズに合致するデュアルシステム型現場実習について検討する。(A-b)	福岡高等学園版のデュアルシステムの在り方について分掌内で検討していく	B	B		
	卒業生の社会的、職業的自立につながる職場定着支援を行う。(A-a)	障がい者就業・生活支援センター等の支援機関と連携し、職場定着支援を行う	B	B		
寮務部	職業生活における必要なスキルの育成を図る。(B-a, C-c, E-c)	職員同士の確実な情報共有及び学校、家庭への情報発信と連携の強化を行う。	B	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>ルールの緩和に引き続き取り組むとともに、既に行っているルールの変更については短期、長期のスパンで見直しを行う。</li> <li>生徒指導については、その生徒に関わる全員の意識と指導力が高まるよう、研修の充実を図り、必要に応じて棟内で支援会議をする。</li> <li>今年度行った取組を生徒の自主性、自立心の向上に確実につなげていくために、環境の調整、設備の充実、支援の手立ての検討を行う。特に生活学習の事前指導の充実、委員会活動の活性化を行い、意図的に称賛したり達成感を味わわせたりする場面を設定する。</li> </ul>
	生徒の自主性や自立心を育む。(B-b)	自治会活動や余暇活動のさらなる充実に努める。 寄宿舎内のルールの緩和に向けた取組を行う。	A	A		
	個や状況に応じた適切な指導を行い、生徒の自尊感情を育む。(B-c, E-b)	個の特性や状況を正しく把握し、小さな努力や成長を称賛する場面を意図的に設ける。	B	B		
	生徒が安心して、安全な環境で生活し学ぶことができる寄宿舎の運営及び体制づくりを行う。(B-d)	施設・設備充実の働きかけや、よりよい活用の検討を行う。	A	A		
保健部	生徒の健康管理意識を高めさせる。(E-c)	寄宿舎と連携しながら生徒個々の身体状況や健康状態の把握に努め、体調不良の生徒に適切に対応する。	A	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健室来室状況はデータを共有することができるようになったため、寄宿舎との連携を図りやすくなった。体調不良や怪我の生徒に対して迅速に対応をとることができた。</li> <li>食物アレルギーの生徒対応については、全職員で情報を共有し、エピペンの使用について研修会を実施することができた。次年度入学予定者においても、情報共有を行う。また、持病のある生徒の緊急対応マニュアルの作成ができた。</li> <li>水分補給については方法等を検討する必要がある。</li> <li>性に関する指導は、各学年の先生方を中心に、生徒の実態に応じて指導していただいた。更に実態に応じた指導を行う。</li> </ul>
		衣服の調整、手洗い・うがい、水分の補給等の指導を定期的に行う。また、保健委員会を中心に手洗いや教室の換気等の呼びかけを行い、生徒の健康管理に関する意識を高めさせる。	B			
		インフルエンザ、ノロウイルス等の感染症が流行する時期に生徒に具体的な予防方法を指導する。また、罹患生徒が発生した場合は迅速に対応する。	A			
	安全な食を提供し、望ましい食習慣を定着させる。(E-c)	食事マナー週間等を通じて、食事マナー指導を行う。	B	B		
		偏食せず、自らバランスのとれた食事ができるよう指導を行う。	B			
		研修会等を利用して、食物アレルギーや減量食等、食事に配慮が必要な生徒の実態を全職員で把握し、対処する。	A			
環境美化に努める生徒を育成する。(E-c)	清掃活動を通じて、環境整備を自ら行う態度の育成を図る。	B	B			
	効果的な大掃除等の企画や検討を行う。	B				
	指導にあたっては、内容の精選・検討等を十分に行う。	B				
生徒の実態に合わせて、性に関する指導を充実させる。(E-c)	性に対する規範意識が高める指導を行う。	B	B			
	生徒の実態や指導内容によっては指導形態等を工夫する。	A				
研修部	生徒が学ぶことと自己の将来とのつながりを見通せる学習指導や、カリキュラムの在り方についての研修を推進する。(D-a)	学校教育研究の充実・深化を図る。	C	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>自立活動の指導に関する基礎的な内容は理解することができた。次年度の学校教育研究では各教科等での指導を目指す。</li> <li>自立活動の時間の指導に関して、取り組み方を検討する必要がある。自立活動の内容等について研修部で話し合い、教務部に提案する。</li> <li>教育実習は、学年、教務と協力しながら、教科指導担当者への負担の軽減を図る。</li> </ul>
	本校の実情及び生徒の実態に即した自立活動の効果的な指導内容・方法についての研究を行う。(D-d)	自立活動における効果的な指導内容・方法の在り方に関する学校研究を行う。	B			
	高い専門性を有する後進の指導者の育成を目的とした研修、および実習等を実施する。(G-c)	初任者・新規採用者研修、教育実習や介護等体験を計画的、効果的に実施する。	B			
特別支援教育部	職員の専門性の向上を図る。(D-d)	様々な教育的ニーズに対応できるように、関係分掌と連携のもと専門研修を計画し、実施する。	A	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の実態を把握し、指導・支援に生かすことができる研修内容を考え、計画的に実施していきたい。</li> <li>新学期や長期休業後は、学校や生活リズムを取り戻すために、学年やクラスでできる活動（エンカウンターやストレスマネジメント等）を計画的に行えるようにする。そのための時間調整、職員の意識向上が今後の課題。</li> </ul>
	心の安定を図るために、家庭や各関係機関との連携し、思いやりのある態度、協調、共同する態度を育てる。(C-d)	スクールカウンセラーと連携し、セルフマネジメントの指導を各学年各学期に計画し、実施する。	B			

	校内支援体制の充実を図る。(F-b)	外部専門家の助言を生かした支援チーム会議、特別支援会議等を行い、学年、分掌との連携を推進するとともに、校内における関係者会議と連動した校内生徒支援体制の強化を行う。	A			<ul style="list-style-type: none"> <li>外部専門家の助言を生かした支援チーム会議、特別支援会議等を行い、学年、分掌との連携を推進する。継続した支援を行うために、学校全体で情報共有を行い連携して支援にあたる。</li> <li>各分掌と連携したセンター的機能の充実。</li> </ul>
	センター的機能充実を図る。(F-c)	生徒の支援に関する相談を受けたり、関係機関の紹介をしたりするなど対外的なセンター機能を発揮し、地域の特別支援教育の充実を図る。	B			
企画庶務部	PTA役員と連携しPTA活動を推進する。(F-a)	定期的、計画的にPTA理事会を開催し、取組みの確認や意見交流を行う。	A	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>PTAで必要と思われる研修会を複数実施し、保護者への情報提供、知識の深化を図る。</li> <li>ホームページについては、有益な情報発信の観点から、さらなる充実を図る。</li> <li>チャイムの変更などが大変なため、ハード面において充実させたい。</li> </ul>
		PTA役員を中心として、体育祭や文化祭等の行事において、PTAの取組みを推進する。	B			
		加盟している様々なPTA団体の総会、研修会などへ積極的に参加できるようPTA役員と連携する。	B			
	PTA理事やスクールカウンセラーと連携し、研修会を充実させる。(D-d)	スクールカウンセラーを講師にむかえ、保護者への研修会を行う。	A	A		
		福祉関係の方を講師にむかえ、保護者への研修会を行う。	B			
		PTA対象に福祉または事業所関係施設の見学会を実施する。	A			
	学校ホームページや広報誌などを通して本校の広報活動を行う。(F-d)	本校の教育活動を紹介するため、学校要覧や学校パンフレットの発行を行う。	B	B		
		学校ホームページの定期的な更新を行う。	B			
	視聴覚機器や放送機器の管理徹底と活用推進を促す。(D-d)	日ごろの教育活動や学校行事の写真を定期的に校内に掲示する。	A	B		
		・放送機器の点検を行い、チャイムの管理を行う。	B			
	・プロジェクターなどの情報機器の管理業務を円滑に行い、活用しやすくする。	B	B			